

2017 年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

2016 年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 <概評> ・国際交流センターが所管する留学生科目の方針については、各学部・学科との今後の協議が期待される。 ・教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性については、「学校法人大東文化学園自己点検・評価推進委員会」と「大東文化大学自己点検・評価委員会」が責任主体となり検証しているが、検証の過程において、学生への周知に関する有効性を検証できていないとしており、周知に向けた今後の検討を期待したい。
2016 年度外部評価委員会指摘事項 なし
前年度からの課題 （2016 年度点検・評価シート IV 次年度への課題 より転記） なし

I 評価項目・担当部局

対象部局	国際関係学部
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-1	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針【自己評定 B】
点検・評価項目(1)	4-1-1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示
	教育目標と学位授与方針との整合性
	修得すべき学習成果の明示
点検・評価項目(2)	4-1-2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
点検・評価項目(3)	4-1-3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性
	社会への公表方法
点検・評価項目(4)	4-1-4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 点検・評価 対象期間は 2016 年 4 月～2017 年 5 月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は 2017 年 5 月 1 日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-1-1	国際関係学部は、学部の教育研究上の目的に基づいて、以下のように学位授与方針を明文化している。 国際関係学部は、所定の単位を修得し、以下のような能力を備えていると認められる学生に卒業を認定し、学士（国際関係または国際文化）の学位を授与する。 1. アジア地域を中心とした国際関係・国際文化に関する学識を修めている。 2. 国際的な広い視野に立脚した異文化理解と言語能力を身につけている。 3. 国際関係・国際文化について主体的に課題に取り組み、自らの視点で分析し、判断できる。 4. グローバル社会の一員としての使命感と責任感を持ち、適切な行動をとる能力がある。
4-1-1	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 学位授与方針の策定について【○】 具体的事例：学部改組検討委員及び教務委員が、全学教務委員会主催の「3 つのポリシー・ブラッシュアップセミナー」に参加した。
4-1-2	国際関係学部は、教育目標と学位授与方針を踏まえ、学部の教育課程の編成・実施方針を、以下のように定めている。 アジアを中心とした国際関係に関する学際的専門教育と言語教育を実施し、広い視野に立った異文化理解の感覚と言語能力

	<p>を有する人材を育成するため、以下のような特色を持った教育課程を編成・実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次のチュートリアル、3年次の専門演習、4年次の卒業論文演習を必修とし、問題意識をもって研究する姿勢と、報告・討論の技術を修得させ、卒業研究をまとめさせる。 2. 1年次から必修の総合英語に加え、アジア地域言語及び英語のうち一言語を選択必修とし、外国語によるコミュニケーション能力を修得させる。また、TOEIC・実用英語検定及び中国語検定試験・「ハングル」能力検定試験による単位認定制度を設けている。 3. 政治・経済・社会・歴史・文化・芸術の各分野を広く学際的に学ばせるとともに、アジア地域についての深い知識を修得させる。 4. 現地研修、長期・短期の海外留学制度を設け、奨学金や単位の認定などにより、国際交流を奨励する。 <p>科目区分、必修・選択の別、単位数等は、学則および『国際関係ガイドブック』等で明示している（A4-1-1 第23条の16～18、A4-1-11 p.18～p.39、B4-1-12 d2-表21）。</p>
4-1-2	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>（1）教育課程の編成・実施方針の策定について【○】</p> <p>具体的事例：学部改組検討委員及び教務委員が、全学教務委員会主催の「3つのポリシー・ブラッシュアップセミナー」に参加し、そこで得た知見をふまえ、2019年度カリキュラムの改訂作業と併行して、見直しを進めることが決まった。</p> <p>（2）科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示について【×】</p> <p>具体的事例：</p>
4-1-3	<p>学部および国際関係学科・国際文化学科の教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は、ホームページで公表している(B4-1-2)。また、『国際関係学部ガイドブック』には、学部の教育目標と学位授与方針、両学科の教育課程の編成・実施方針が、受験生向けの『大学案内（CROSSING）』には、両学科の2つの方針が掲載されている(A4-1-11 p.2～p.4、A4-1-4 p.116-118、p.120-122、p.145-146、B4-1-12 d2-表1)。</p> <p>卒業生アンケートの結果では、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーへの認知度が高いとは言えないのが現状である。2019年度カリキュラム改訂作業と併行して対策を検討することになっている。</p>
4-1-3	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>（1）大学構成員への周知方法と、その有効性について【○】</p> <p>具体的事例：『学部の学びと社会の関係』を喚起するために、1年次必修のチュートリアルにおいて定期的にキャリア講演会を実施した。</p> <p>（2）社会への公表方法について【×】</p> <p>具体的事例：</p>
4-1-4	<p>教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性は、年度ごとの自己点検・評価活動で検証してきた(B4-1-6)。また、本学部は、開設以来、原則的に4年に1度、教務委員会を中心にカリキュラムの検証・改訂作業を行ってきた。今後も、グローバル化する社会の要請に的確に対応するために、学位授与方針の見直しと併せて、常に教育課程の編成・実施方針の点検を進めていく（B4-1-10）。</p>
4-1-4	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【○】</p> <p>具体的事例：学部改組検討委員会において、2019年度カリキュラム改訂作業を進めている。</p>

【効果が上がっている事項】

4-1-1	
4-1-2	
4-1-3	
4-1-4	

【改善すべき事項】

4-1-1	学位授与方針（修得すべき学習成果の明示方法）の検証
4-1-2	2019年度カリキュラム改訂（第7次）に向けて、DPとの関連で従来の編成方針を検証する。
4-1-3	学生への「学位授与方針および教育課程の編成・実施方針」の周知度を向上させる必要がある。
4-1-4	

Ⅲ 【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	4-1-2 教育課程の編成・実施方針の 検証	新カリキュラム（第6次）の制定	→			A	A	
	4-1-3 在学生が、学部教育目標を 的確に理解し、外部に説明するこ とができる。	卒業アンケート（学部独自）の集計結果 「理解している」80%以上	→			B	B	
	4-1-3 在学生が「学位授与方針およ び教育課程の編成・実施方針」を的確 に理解し、外部に説明すること ができる。	卒業アンケート（学部独自）の集計結果 「理解している」80%以上	→			B	B	
16 年度 目標	4-1-1 修得すべき学習成果の明示	検証可能な基準になっている。				C		
	4-1-2 教育課程の編成・実施方針の 検証	カリキュラム改訂・カリキュラムの検証 カリキュラム改訂（第7次）の準備				B		
	4-1-3 在学生が、学部教育目標を 的確に理解し、外部に説明するこ とができる。	学部の教育目標が『学部ガイドブック』 に明記され、その周知のために、チュー トリアルにおいて、『学部の学びと社会 の関係』を喚起するための授業や講演が 2回以上実施されている。				A		
	4-1-3 在学生が「学位授与方針およ び教育課程の編成・実施方針」を的確 に理解し、外部に説明すること ができる。	学部の「学位授与方針および教育課程の 編成・実施方針」が『学部ガイドブッ ク』に明記され、その周知のために、チ ュートリアルにおいて『学部の学びと社 会の関係』を喚起するための授業や講演 が2回以上実施されている。				A		
17 年度 目標	4-1-1 学位授与方針の見直し	学修成果の検証可能な基準が策定されて いる。					C	
	4-1-2 教育課程の編成・実施方針の 見直し	カリキュラムマップ（カリキュラムソリ ー）履修モデル等が作成されている。					A	
	4-1-3 在学生が「学位授与方針およ び教育課程の編成・実施方針」を的確 に理解し、外部に説明すること ができる。	在学生が「学位授与方針」や「教育課程 の編成・実施方針」を理解できるような 学修成果の測定方法が検討されている。					C	

Ⅳ 評価専門委員所見

16 年度目標の 4-1-1 は評価 C ですが学位授与方針の策定について【現状説明】では【○】具体的事例も明確に記述されています。
4-1-2(1)、4-1-4 の現状説明では取組の成果有(○)とし、具体的事例も明記されています。改善すべき事項と 17 年度目標は明確で、成
果が期待されます。

Ⅴ 所見への対応

--

Ⅵ 次年度への課題

2018 年度の「卒業時アンケート」に教育目標・DP、CP の理解度を測る質問項目を追加することを検討する。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A4-1-1	大東文化大学学則	《既出》A1-1
A4-1-4	大学案内「CROSSING2017」	《既出》A1-6
A4-1-6	2017 年度諸資格課程履修の手引き	
A4-1-11	国際関係学部 ガイドブック 平成 29 (2017) 年度入学生用	《既出》A1-12
A4-1-17	学校法人大東文化学園自己点検・評価規程	
B4-1-1	大学ホームページ (建学の精神・教育の理念) http://www.daito.ac.jp/information/about/idea.html	
	大東文化大学の基準別基本方針 http://www.daito.ac.jp/information/about/basicpolicy.html	
	《既出》B1-5	
B4-1-2	大学ホームページ (情報公開) http://www.daito.ac.jp/information/open/index.html	《既出》B1-6
B4-1-6	大学ホームページ (自己点検・評価活動)	
	http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html	《既出》B1-16
B4-1-7	国際関係学部ホームページ (国際関係学部からのお知らせ)	
	http://www.daito.ac.jp/education/international_relations/news/details_10639.html	
B4-1-10	2015 年度第 12 回国際関係学部教授会議事録	
B4-1-11	2017 年度ガイダンス日程表 (学部・研究科)	
B4-1-12	大学データ集	《既出》B1-22
〔追加資料〕		
2016 年度第 8 回国際関係学部教授会議事録		
2016 年度第 12 回国際関係学部教授会議事録		
2017 年度第 1 回国際関係学部教授会議事録		